

TOPICS

01 「見える」クラウドコンピューティングによる高品質な仮想化インフラ基盤の提供サービスを開始

当社は2月15日、当社大阪中央データセンターにおいてクラウドコンピューティングによる仮想化インフラ基盤の提供サービスを開始しました。今回サービス基盤として採用したサーバ・ストレージは、これまで当社がパナソニック電工株式会社の基幹システムに採用し、その耐障害性・可用性・信頼性を実証した実績のある「Egenera® BladeFrame®」と「3PAR」で、ミッションクリティカルなシステムの運用にも安心・安全にご利用になれます。当社は今後、このサービスをシステム保有から利用への移行を図りたい企業のコスト・運用負担の軽減対策として展開してまいります。



大阪中央データセンター

02 「MajorFlow Keihi for 勘定奉行」の新バージョン、「MajorFlow Time」を発売

当社の連結子会社であるパナソニック電工ネットソリューションズ株式会社は4月12日、経費精算専用電子決裁システム「MajorFlow Keihi for 勘定奉行」の新バージョンを発売しました。新商品には領収証台紙のバーコード印刷機能など多彩な機能を追加し、さらに利便性を高めました。また、5月10日には、Web勤務管理システム「MajorFlow Time」を発売しました。この商品は、今年4月に施行された改正労働基準法に対応した従業員の就業時間管理、タイムレコーダーとの連携機能などが特長です。今後も、お客様の業務の効率化、課題解決に貢献する商品・ソリューションを展開してまいります。



03 「Cloud Computing World 2010 in Osaka」で講演

5月17日に大阪で「Cloud Computing World 2010 in Osaka」が開催されました。これは関西最大級のクラウドコンピューティング専門イベントで、昨今クラウドコンピューティングによる合理化・効率化への企業の関心が高まるなか注目を集めています。当社は今回このイベントで「クラウドとオンプレミスの連携～導入事例に見るクラウド徹底活用の勘所～」と題した講演を実施しました。ここでは、当社の「ASTERIA Salesforceアダプタ」などを活用することで、クラウドと自社運用システム（オンプレミス）のシームレスかつリアルタイムの連携、効率的なメンテナンスを実現した事例をその効果も含めて紹介しました。この講演には定員を超える参加者がつめかけ、盛況となりました。



講演するソリューション営業部 秋山 登

あいえす☆人物伝 その6 武田 賢治



「お客さまも、チームメンバーとも、一歩踏み込んだつながりを作っていきたい」と語るのは、IDCサービス事業部の武田 賢治。サーバ統合などインフラ環境の構築プロジェクトで活躍中です。「当社の実績を基にご提案するわけですが、お客さまの環境と当社の環境は似ているようで違います。インフラ構築は、そのギャップを埋めながらお客さまと一緒に汗を流して作り上げていく“創業期”のようなもの。難しいけど面白いですね」と仕事の醍醐味を教えてくださいました。大切にしているのは、冒頭の言葉通り「人と人とのつながり」。「よい関係だからこそ一生懸命相手のことを考えられる。お客さまへの思いをベースに生み出したソリューションにDelightがあると信じています。そして、お客さまの感動、メンバーの達成感を得る。これが自分にとってのDelightですね」と熱心に語ってくれました。アメリカンフットボールでも名クォーターバックとして長く活躍していた彼、今はゴルフがもうひとつのDelight。「時間があれば月何回でも行きますね。実は前川社長からライバル宣言されているんですが、負けませんよ! (笑)」

編集後記

「自社でシステムを保有するより『必要なとき、必要な分だけ』借りるほうが無駄なく効率的だ」・・・昨今のクラウドコンピューティングに対する関心の高まりは、企業のIT資産に対する考え方が「最高・最大」から「最良・最適」へと変化してきたことの表れではないでしょうか。パナソニック電工ISは、お客さまにとっての「最良・最適」をご提案いたします。ぜひお声がけください。

発行元

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
総務部 広報・IRグループ

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F  
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 http://panasonic-denko.co.jp/

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。  
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。



IS クローズアップ

Move to Delight

2010.5  
Vol.13

パナソニック 電工インフォメーションシステムズ

Top MESSAGE

Q-C-DからQ-C-S“スピード”へ。

ゴールデンウィーク前の大ニュースを覚えておられるでしょうか?万博開幕直前で熱気あふれる上海やアイスランドの火山大噴火などが連日報道されていました。さて連休後どうでしょうか?そんなニュースもどこへやら、ギリシャの経済危機、ニューヨーク株価の乱高下等々、その変化は世界レベルでめまぐるしいかぎりです。

私は4月の社長就任以来、全国各地を飛び回っていましたが、お会いしたお客さまや取引先さまのお話から、国内景気が回復基調であること、それにとまなう前向きな変化を強く感じ取ることができました。そして、それ以上に実感したのが「スピード(変化の速さ)」です。

「この機を逃さず一気に攻勢に転じたい」そう思うのは、お客さまも私たちも同じです。なぜなら、時流が転換点にあるタイミングこそ、その後のビジネス展開を決定づける大きなポイントになるからです。このターニングポイントにあって「周囲の状況を十分観察しながら慎重な舵取りをする」、確かにそういう選択肢もありますが、今、お客さまのご要望は、それとは違うと感ずるのです。キーワードは「Q-C-“S”」、すなわちQuality=品質、Cost=費用、Speed=スピードです。

この言葉は一般的には「Q-C-D」とされ、“D”はDelivery=納期を意味します。従来、IT業界の使命は、お客さまの変革に対してQCDを守り「最大・最高」のシステムを開発・納入することでした。しかし変化の激しい今の時代、お客さまの期待はそこにありません。お客さまは、「競争優位を築きたい」「生産性を向上したい」「現状を変えたい」ために、それぞれに

あった「最良・最適」のシステムやサービス、そして、これらをお届けするスピードを求めています。

お客さまのビジネスの変革スピードがこれまで以上に速い今、私たちはそれを上回る“スピード”をもって事業を進めなければなりません。私は社員にも、このことを強く意識してほしいと話しています。品質、コストとスピードは二律背反の関係かもしれませんが、これをクリアするからこそ、「お客さまが“満足”」され、さらにそれを越えた感動を感じていただけるのではないかと。私はそう考えるのです。

時間は最も重要な資源です。そして一分一秒でも速いスタートこそ、ビジネス成功のセオリーです。私たちはQ-C-Sの実現により、お客さまのスタートダッシュに役立つITサービスをお届けしてまいります。



パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
代表取締役社長 前川 一博  
Kazuhiro Maegawa



# Close Up Now

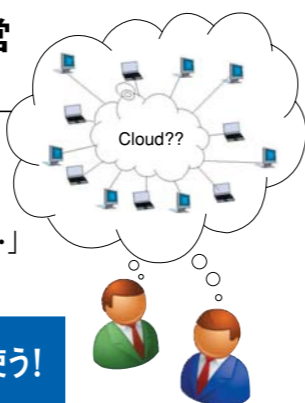
## “所有から利用へ”～IT資産、持たざる経営

2010年◎月X日 A社情報システム部門での会話

部長「そろそろうちもクラウドコンピューティングを考えてみたらどうだ。これからはIT資産も持たざる経営にシフトするべきだよ」

課長「でも、運用しているサーバが世界のどこにあるかわからないのがクラウドですよ。いざという時を考えると基幹システムには無理です。影響の少ないアプリなら・・・」

部長「だが、それでは結局『持たざる経営』にならないじゃないか・・・」



**提案!** 大阪中央データセンターで「見える」クラウド基盤を使う!

パナソニック電工ISは、大阪中央データセンターでクラウドコンピューティングによるインフラ基盤の提供サービスを展開中。場所が「見える」クラウドだから安心です。最新設備を誇る免震構造の都市型データセンターで、高速フェイルオーバーを誇るミッションクリティカル対応のホスティングサービスなど安心・安全の運用サービスを提供します。



大阪中央データセンター

### CHECK! パナソニック電工ISの実績

パナソニック電工の情報システム部門時代から約50年にわたる豊富な運用経験が強み。プライベートクラウドの構築・運用実績もあります。自らが基幹システム運用に活用しているのと同じ基盤を提供するので、お客さまのシステムも安心・安全!

## “1社から多社へ”～「ベンダー」ではなく「よいもの」にこだわる

2010年◎月X日 C社総務部での会話

部長「ビデオ会議、なかなかいいね。他の拠点にも入れたいけれど、もう少し画質の良いものの方がいいね。最近はもっといい製品がでてきているから、考えてみてはどうか?」

課長「そうすると総入れ替えですか?今の機材は、まだ数年しか使っていませんし、まだビデオ会議がない他の拠点が後回しになってしまいますよ」

部長「うーん、でも満足しきれない機材を追加導入するのは、なんだかもったいないね」

**提案!** ビデオ会議システムTANBERGでムダなく効率的にテレビ会議拠点を増やす!

ビデオ会議システム「タンバーク」は距離を感じさせない臨時感あふれる画質・音声が強く評価されています。他社製品との互換性も高く、活用頻度アップに効果大!

### CHECK! パナソニック電工ISの実績

当社では、複数ベンダーのビデオ会議システムを活用中。使用頻度が高く、精細な画質が求められる拠点からタンバークを導入し、コストをみながら、順次、導入台数を増やしています。もちろん既存の機材も、タンバークの互換性を活かし、他の拠点で大活躍中!ビデオ会議に置き換えて出張を減らすなど、そのコスト削減効果は年間約2000万円※1にも!



## “刷新から活古へ”～完全作り直しから部分・旧資産活用

2010年◎月X日 B社営業部での会話

営業X「この商談情報を登録したら、次は、この注文情報システムに登録して、あっ!顧客管理システムも・・・」

営業Y「それぞれに入力するの、大変だなあ。経理も別のシステムだし」

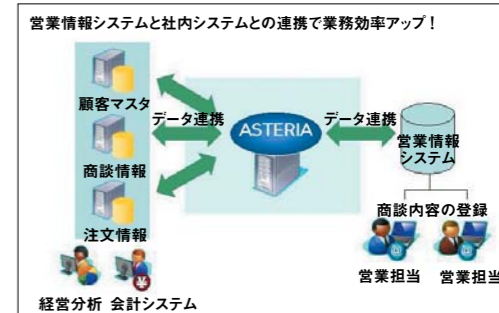
営業X「統一できないのかなあ?でもまあ、そんなシステム、コストも時間も莫大にかかるんだろうな」

**提案!** ASTERIAでシステム同士をつなぎ、新しいシステムに生まれ変わらせる!

新しいシステムの構築には相当な時間がかかるもの。でもASTERIAを使えば、Excelやeメールなども含めた今あるシステムの有効活用でスピーディーかつリーズナブルに新しいシステムを構築できます!

### CHECK! パナソニック電工ISの実績

ASTERIA連携は当社のオハコ。すでに170社ものお客さまにご導入いただいています。顧客データベースと請求書発行システムやFAX配信システムとの連携など、お客さまのニーズに応じてご提案します。



## “専用から共用へ”～仮想化による統合・共用で「実」を獲る

2010年◎月X日 D社サーバルームでの会話

担当者Z「なんだかどどんサーバが増えていくなあ・・・最近障害も多いし、心配で夜もゆっくり眠れないですね」

担当者O「このネットワークケーブルもこんなにかまっちゃって、どこに何が繋がっているのか、すぐにはわからないかもしれないな」

担当者Z「引っぱったら筐体ごと倒れるかもしれないですね。こんなのがどどん増えていったら、仕事が追いつかないですよ・・・」



ジャングル状態の配線

**提案!** 「Egenra® BladeFrame®」でサーバを統合する!

爆発的に増えるサーバの管理は情報システム部門共通の悩み。Egenra®があれば、仮想化・統合化で運用にまつわるさまざまな悩みを解決し、成果という「実」をゲット!!

### CHECK! パナソニック電工ISの実績

当社は2004年に「Egenra® BladeFrame®」を導入したパイオニア。現在、約10台で400以上あるOSを運用できており、人件費や管理工数などの負担も大幅に軽減。人件費の削減効果は年間約2,900万円※2にも!



「Egenra® BladeFrame®」ならケーブル配線もスッキリ